

平成 24 年 6 月 18 日

6 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木の丸太生産状況は間伐主体で順調だが、市況下落で一部で伐採中止の動き。入荷は順調なもの、製品の荷動きが依然好転せず、スギ、ヒノキ共に柱材を中心に引合いが極端に弱まっている。中目材は荷動き低調ながら出材少なくまずまずの引合い。ヒノキ柱材の値下がりが顕著で、昭和 35 年当時の価格となった。群馬は、原木の入・集荷及び原木在庫状況とも特に問題なく、操業度は引き続き低水準。受注・販売状況は悪く、製品在庫はやや多め。スギ原木の供給は少ないが、需要も少なく、また虫害の季節でもあるので買気は薄く価格は続落。5 月から長期住宅ブランド化事業の申請が始まったので注視したい。

2. 米材

4 月の米国新設住宅着工戸数は、前月比 2.6%増の年率 71 万 7 千戸となった。米国丸太は、国内市況が引続き堅調で、中国向け丸太が国内に廻っており、過剰感は無く相場は保合。カナダ丸太は日本の合板市場の低迷を受け、各社生産調整に入っているため、伐採量は減少傾向で価格は保合。産地の港頭在庫は、伐採量と出荷量とのバランスが取れており、前月並みの数量。ウェアハウザー社の 6 月積み米マツ IS ソートは前月価格据え置き。米材丸太の入・出荷は横這い、在庫は増加傾向。大型港湾製材工場の 5 月の荷動きは前月に引続き良好。内陸部製材工場の荷動きは回復せず、当用買いが続く状況。製材品の TLT(東京木材埠頭)の 5 月入荷量は 4 万 5 千 m³で前月比 5.6%増。出荷量は前月比 13%増で、在庫はほぼ横ばいで推移。産地情勢は、カナダの大手製材は丸太伐採が順調で供給面では不安なし。米マツ製材品の産地価格は、丸太価格の高値が続き、日本向けは値上げ傾向。荷動きは前月同様停滞気味で、価格にも大きな変化なし。

3. 南洋材

サバは原木の出材が良くなりつつあり、日本バイヤー側には値下がり期待があるものの、労働者不足や賃金上昇等コストアップや太材良木の不足感を背景

に、現地シッパーには値下げに応じる気配はない。棒類やデッキ用材等不足感のある一部樹種は強含みだが、他は保合又は緩やかな下落基調。サラワクは、天候が回復し伐採が順調な上、ここに来てインド通貨ルビーの下落でインド向けが落ちてきており、原木相場下落への期待感から日本、台湾バイヤーは様子を伺っている状況。PNG・ソロモンも天候が回復し、出材は比較的順調。中国からの引合いは依然多く、市況は強含み横這いの模様。南洋材丸太の入荷は減少、出荷は横這い、在庫はやや増加。製材品の入荷はやや減少。原木の販売は、合板・製材用とも低迷。製材品の販売は低迷。

4. 北洋材

ロシア極東は中国向け貨車渡しが続く低迷し、シッパーにとって非常に厳しい状況。日本向けカラマツは $165 \text{ \$} / \text{m}^3$ で緩やかな弱含みだが、まもなくアムール材の出荷も始まり、国内合板メーカーからまとまったオファーがあれば反転する可能性あり。シベリア地方は、冬山造材がほぼ終了し、夏山移行への端境期となっている。日本向けは国内主要製材工場が夏越え丸太を十分に確保している模様で、各シッパーともこの夏は開店休業が続く模様。富山港・富山新港の5月丸太入荷は、 $10,817 \text{ m}^3$ (アカマツ $5,277 \text{ m}^3$ 、エゾマツ $5,540 \text{ m}^3$) と先月比43%減。一方、製品も $6,499 \text{ m}^3$ で先月比42%減。丸太の荷動きは製品の売れ行き悪く低調。製材品は首都圏で輸入完成品の荷動きが低調で、港頭在庫も減少せず。出荷は低調で在庫は2~3ヶ月。丸太価格はエゾマツ、カラマツ、アカマツとも弱含み。製材品は在庫調整進まず弱含み。国内製材工場の採算状況はエゾマツ丸太はトントン、アカマツ丸太は不採算。受注低調で製材の採算合わず、特殊サイズでの受注生産に切り替えて対応。

5. 合板

合板用国産材丸太は、製品の荷動きが悪く在庫過剰なため、原木手当てを見合わせているメーカーもあり価格は弱保合。南洋材丸太は、他国の買い控えで弱含み、米材は横這いの状況。4月の国内合板生産量 21.1 万m^3 のうち、針葉樹合板は 19.3 万m^3 。出荷量は 19.3 万m^3 と今年最高となり、9ヶ月ぶりに生産を若干上回った。しかし、在庫は 23 万m^3 と微増しており、依然多めの水準に変わりなく、市場では生産調整を強く望んでいる。針葉樹合板は、各メーカーの足並みが一向に揃わず、市場では先安感が払拭されず、先行きの価格動向は不透明の状況。メーカー在庫の適正化には時間がかかるとの見方から、市況は軟調な展開が暫く続く模様。国産南洋材合板は、引き続き荷動き低調な状態に変化はない。針葉樹合板は下落が顕著で、市場では必要分のみの手当てが継続しており、反転の材料に乏しく慎重な手当ては当分続く見通し。輸入合板の荷動きは

12mm 厚品を中心にまずまずの状態、川上の在庫は減少でも産地が強含みなことから、堅調な状態が続く見通し。一方、針葉樹合板は増加し続けているメーカー在庫を背景に、市場では先行きを危惧しており、足元で反転は難しい。

6. 構造用集成材

原料・ラミナの6月入荷は順調。しかし、5月出港が難航したため、一部メーカーは7月入荷が極端に少ない。ラミナは今後現地サプライヤーの夏休みのため秋の入荷はばらつく。国産集成材の受注、販売、荷動き及び在庫は横這い。価格は現地サプライヤーの採算重視の価格交渉に加え、為替変動により現地価格上昇に連動。第3QTRも現地価格10~20ユーロの値上げ。輸入集成材は円ベース53,000円/m³での交渉が難航し、50,000円/m³以下の契約となった。今後は日本マーケットの動きによるが、ラミナでの値上げに反比例して、現物価格は思うように上げられない。首都圏を中心に職人不足は依然続いている。九州地区の動きは大変良い。

7. 市売問屋

国産構造材は、連休明け後の春需を期待したが、スギ、ヒノキとも荷動き鈍く期待はずれ。外材は入荷は順調で港頭在庫も増加傾向だが、国産材同様荷動き悪い。造作材は、国産材では増改築用内装材全般で引き続き動き鈍い。外材は、依然スプールの入荷が薄く対応に苦慮。今月一定の入荷あるものの不足感は解消されない。買方のまとまった手持仕事量が少なく、特定の記念市を除き、市日は来場者も少なく低調で当用買い。昨年は住宅エコポイントで駆けこみ需要を見たが、今年は復興支援、エコポイントが震災地限定なので景気の刺激が少ない。木造住宅着工も下降気味で先行きは非常に不透明。

8. 小売

国産材の構造材価格は、スギKD柱、小割、ヒノキKD柱、土台とも保合。外材は、米ツガKD平割、正角、ロシアアカマツ垂木は弱保合。WW間柱保合。造作材スプールの、ピーラー良材少ない。タモ、ナラ材保合。WW、RW集成材は梁、柱とも弱保合。合板は、針葉樹、ラワンともに保合。床板、フローアは変わらず。プレカット工場は、相変わらず町場の仕事少なく苦戦。工務店は活気のない商いが続く。リフォームが幾分出ているが、新築は価格競争激しく受注難。

[【参考資料】需給価格動向 PDF ファイル](#)